

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----|---|--------------|-----------------|-------------------|----|----------|----|----------|-----|
| 授業科目名 <英訳> | 中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars) | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | 人文科学研究所 准教授 古勝 隆一 | | | | | |
| 配当 学年 | 1回生以上 | 単位数 | 2 | 開講年度・ 開講期 | 2017・ 前期 | 曜時限 | 月3 | 授業 形態 | 演習 | 使用 言語 | 日本語 |
| 題目 | 清代學術著作会読 | | | | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| <p>現代の漢学研究においては多様な方法論が提唱されているが、そのうちの重要なひとつとして、清代學術に淵源を持つ方法がある。</p> <p>清儒の漢学研究については多くの研究蓄積があるものの、それら先行研究を咀嚼して清儒の方法に迫るといふ道以外に、清儒たちの声そのものに耳を傾ける必要がある。この授業では、現代的な視点から、代表的な学者の著作を読むこととする。</p> <p>単に清朝學術を研究する資料として著作をとらえるのみではなく、それらの読解を通じて、我々現代人が中国古典といかに向き合うべきかという問いを問うこととする。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| <p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 清朝の学者の著作を正確に読み解き、自然な日本語に翻訳する。 ・ 著作において触れられている学術的な内容を詳しく検討する。 ・ 上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| <p>以下の論学書簡について、訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 ガイダンス ・ 第2回～3回 戴震「孟子字義疏証序」 ・ 第4回～5回 段玉裁「周礼漢読考序」 ・ 第6回～7回 段玉裁「十三經注疏积文校勘記序」 ・ 第8回～9回 段玉裁「毛詩詁訓伝定本小箋題辞」 ・ 第10回～15回 錢竹汀「答問」(『易』の部分) | | | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。 ・ 現代中国語の正しい発音ができること。 ・ 正しい日本語を書くことができること。 | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点及び達成度】 | | | | | | | | | | | |
| 平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。 | | | | | | | | | | | |
| ----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

後期に開講される「清代論学書簡会読」をあわせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。